

# 田舎館村熊野宮のエゾエノキの保護・保全事業実施報告書です。

名木の所在地	青森県南津軽郡田舎館村大字川部字下川原56（熊野宮境内）
名木の名称	エゾエノキ大樹 推定樹齢 450年
名木の所有者	熊野宮
治療年月日	平成22年10月20日（水）
樹木医による 名木の診断内容	<p>本樹木は主幹の太さから全国的にも有数の巨木であり、本県の巨木の中でも貴重な「緑の財産」である。</p> <p>全体に、周辺の樹木に被圧されて枝葉が樹冠上部に集中し、中間層及び下部は被圧されて枯れている。</p> <p>また、主幹部と分岐した太枝は腐朽が進み空洞化している。分岐した太枝には強固な支柱が設置している。</p> <p>根元の防護柵は狭く、根元周辺は踏圧されて固結し根系の伸長に障害となっている。</p>
実施した治療内容	<p>主幹部の腐朽部殺菌をした後不定根の誘導を図るために、空洞部分に土・バーク堆肥・活性炭・ルーフソイルを混ぜ合わせた良質土を充填した。充填した土がこぼれ落ちないように金網と吸出防止材で押さえた。</p> <p>周辺部の被圧木であるスギなどの伐採除去を行った。</p> <p>根元周辺部分には高度な有機質を含む改良材と、土壌の有機質分解を促す微生物増殖環境とするため空隙率の高い活性炭により、土壌改良工を図る必要がある。</p> <p>また、土壌改良したあとに細根の発生を多くするために、発根剤の散布と新根の健全性を促進するため養生剤の散布が必要である。</p>
今後の名木に 対する留意事項	<p>不定根の誘導については、4～5年後に不定根が地床まで到達しているかを確認して、その後の対応を検討する。</p> <p>根元の防護柵が狭いので、防護柵を広くする等今後の検討が必要になる。</p>



田舎館村川部下川原  
熊野宮のエゾエノキです



主幹部と分岐した太枝の腐朽部です